

ピース・レター ちょうふ

ちょうふピース部特別版

～ 届け 平和に対するこの思い ～

令和7年3月発行

私たち「ちょうふピース部」はこの1年間、戦争や平和について学びを深め、イベントでの発表や同世代との交流活動を行いました。そして、その活動を「ピース・レター」としてまとめました。

世界情勢が安定せず、一部の場所では平和が消えかかっている今「どのように平和を作れるか」「それを他者にどう伝えられるか」とたくさん考え悩んだこともありました。

若者である私たち「ちょうふピース部」が考える平和、そしてこれから目指すべき平和のあり方を、この「ピース・レター」を読んでくれた皆さんと一緒に考えていけたらと思っています。



ピース部メンバーで作成した
オリジナルのロゴです。



ピース部会の様子



調布平和のついででの発表の様子

「ちょうふピース部」とは



調布市は「ピースメッセンジャー」として任命した市内の中学生を市民の代表として被爆地へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元する取組を行っています。

これまで任命されたピースメッセンジャーたちが、派遣された年度以降も継続的に活動できるように、令和5年度から「ちょうふピース部」を立ち上げ活動を始めました。



「調布平和のつどい」での発表

8月11日に行われた「第37回調布平和のつどい」で、私たち「ちょうふピース部」へ出演依頼をいただき、『私たちの世代が考える「平和に必要なこと」』をテーマに発表を行いました。

発表をするために、まず私たちの同級生である中高生に「今、世界で起きている戦争、紛争についてどのように考えていますか」「平和だなと感じる時はいつですか」という2つの質問に答えてもらう動画を作成し、発表当日に流しました。放映後、当日登壇したピース部メンバーが自分たちの意見を発表しました。最後に、来場された方々にマイクを向け、同じ質問をしました。

発表準備をする中で、ピース部だけでなく協力してくれた同年代のみんなが「今世界で起きている戦争、紛争がなくなって欲しい」「日常生活を送っている時に平和だなと感じている」と考えていることを知ることができました。

のちに会場アンケートを見て、私たちが伝えたかった平和への想いが来場者に届いたことが確認できて嬉しかったです。そして、もっと多くの機会でも多くの人に平和への想いを届けたいと思いました。

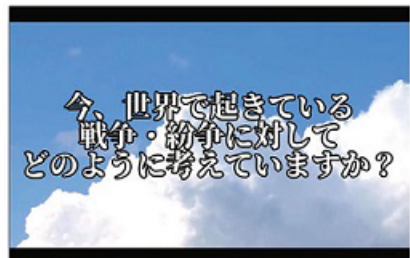
当日登壇

阿部咲生奈 / 安藤笑太郎 / 工藤海寿寿 / 鈴木湧真 / 福永絢

多くの市民へ想いを届けました



発表用に動画を自作しました



来場者に直接マイクを向けてみました

ピースメッセンジャー2024への学習会

ピースメッセンジャー2024が長崎現地派遣前に行う学習会の運営・進行をピース部メンバーで行いました。学習会ではメンバーで考え準備した「勉強会」と「ディスカッション」を行いました。

勉強会では、第二次世界大戦から太平洋戦争にかけての世界の歴史について、スライドを用いて説明をしました。

ディスカッションでは、2グループに分かれて【戦争が与える影響とは?】【自分にとっての平和とは?】【Z世代の私たちが戦争を学ぶ意義とは?】

の3つのテーマに沿って意見交換を行いました。進行の仕方は各グループのメンバーで決めて、最終的に一つの考えを全体に発表しました。

後輩ピースメッセンジャーたちへの「実際に現地に行くことで様々なものを見て、触れて、感じて学んでほしい」という想いを胸に準備をしました。準備も進行も大変だったけれど、想いは伝わったかなと思います。

当日参加

安藤笑太郎 / 落合奏太 / 鈴木湧真 / 太期結子



自作スライドで戦争についてレクチャー



2グループに分かれ平和についてディスカッション



後輩ピースメッセンジャーたちを引っ張って議論しました

都内戦争関連資料館の見学

色々な展示に心を動かされました



ピース部のメンバーで都内にある2つの戦争関連資料館の見学に行きました。その2つの施設を見学した4人のメンバーが、感じたことや印象に残ったことを紹介します。是非皆さんも足を運んでみてください。

2つの資料館に行って印象に残ったことは、戦地に赴いた方々の体験談を見るだけではなく、戦争で用いられた物を見たり触ったりすることができたことです。実物を見たり触ったりすることで、当時の緊迫感がより伝わってきたように感じました。戦争が終わった後も危険な環境にさらされ苦しんだ人々がいたという事実を多くの人に知ってほしいと感じました。(落合奏太)

しょうけい館の展示を見て、戦時中には憧れられ尊敬されていた兵士の方々が、戦争が終わった瞬間に行き場をなくしたという事実を知り心が痛くなりました。

平和祈念展示資料館には、目を背けたくなるような展示もありましたが、一部の収容所では給金が出るなど、まだまだ知らないことがたくさんあると感じました。(工藤海寿寿)

平和祈念展示資料館で「シベリア抑留」について学び、戦争が終わっても、シベリアに抑留され苦難を強いられていた人々が多くいたことを知りました。戦争は戦時中だけでなく、終わった後も人々を苦しめる悲惨なことなのだとあらためて感じました。(有藤莉梨奈)

しょうけい館にある「野戦病院のジオラマ」は、食料も医薬品も届かず傷付いた兵士の治療を別の兵士が麻酔無しで行っている様子が再現されています。

現在では考えられない壮絶な状況にとっても胸が締め付けられました。(岡ななみ)

貴重な展示を見て新たな気づきを得ることができました



●平和祈念展示資料館
住所：東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル33階
入場料：無料
アクセス：新宿駅西口から徒歩10分



●しょうけい館(戦傷病者史料館)
住所：東京都千代田区九段北1-11-5
グリーンオーク九段2階
入場料：無料
アクセス：都営新宿線九段下駅から徒歩3分

調布エフエムの番組に出演

毎週木曜日21:30から調布エフエムで放送している「東京オアシス」に出演依頼をいただき、メンバー3人が収録に参加しました。

安藤笑太郎

福永絢

斉藤莉梨奈

この収録に参加しようと思った理由は？

安藤 調布市の人に平和のことについて学んだことを伝えたいから。

福永 平和について学んだことをもっと調布市内外の方々に伝えていきたいと思った。

斉藤 平和のあり方を発信できるせっかくの機会だし、面白そうだったから。



出演して印象に残ったこと、感想

安藤 本格的なスタジオで最初はすごく緊張したが、意外とリラックスして話せた。

福永 パーソナリティーの長谷川さんがとても気さくな方で、とても優しく話を引き出してくれた。

斉藤 長崎派遣の時や今まで行ってきた活動を思い出し、懐かしい気持ちになった。

出演してから変わったこと

安藤 平和に対する活動への意欲がより高まった。

福永 市などの平和関係の活動にもっと積極的に参加したり、見に行ってみようと思った。

斉藤 より外部の方に平和について考えてもらいたいと思うようになった。

ラジオ出演という貴重な経験を通して、平和への理解をより深めることができました。これからたくさんの人に平和の重要性など自分たちの考えを発信していき、平和の輪が出来るだけ大きく広がるように活動をしていきたいと思います。

発行／ちょうふピース部・調布市

協力／NPO法人ちょうふ子どもネット

問い合わせ／生活文化スポーツ部文化生涯学習課 〒182-8511 調布市小島町2-35-1

Tel:042-481-7139 Mail:bunsin@city.chofu.lg.jp

発行日／令和7年3月